

調査事業の概要

ユニバーサルツーリズム促進に向けた
地域活動実態に関する調査

平成24年度の検討内容

1. 観光におけるユニバーサルデザイン化の取り組み

■ これまでの取り組み

17年度以前 (2005年)	18年度 (2006年)	平成19年度 (2007年)	平成20年度 (2008年)	平成21年度 (2009年)	平成22年度 (2010年)	平成23年度 (2011年)	平成24年度 (2011年)	平成25年度 (2012年)	
ユニバーサルデザイン政策大綱 (H17年) 交通バリアフリー法(H12年) バリアフリー法(H18年)		◎観光立国推進基本計画(H19/6) 「ユニバーサルデザインの考え方に 基づく観光の促進」					◎観光立国推進基本計画(H24/3)		
		◎観光庁発足(H20/10)					旅行の送り 手にかかる 課題の検討	旅行の着地 側にかかる 課題の検討 ・モデル化	<予算要求中> 認定制度の 検討、受入 体制の強化 等
ユニバーサルデザインの考え 方に基づく観光促進検討会		◎観光のユニバー サルデザインガイ ドライン(H20/3)			◎シンポジウム(ユニバーサルデザインの 考え方に基づく観光促進シンポジウム) (H21/3)		◎ シンポジウムの開催		◎

■ 観光立国推進基本計画(平成24年3月)

第3 観光立国の実現に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策

3. 政府全体により講ずべき施策

3-5. 観光旅行の促進のための環境の整備

(三) 観光旅行者の利便の増進

① 高齢者、障害者、外国人その他の観光旅行者が円滑に旅行できる環境整備

(ユニバーサルデザインの考え方に基づく観光の促進)

観光産業だけでなく、地方自治体やNPO、他の産業等の幅広い関係者による協力のもと、高齢者や障害者が安心して参加できるユニバーサルツーリズムを促進するため、関係者間において地域における先進的な取組や課題解決に向けた取組を共有し、それぞれが段階的に向上していくための仕組みを平成24年度に検討し、その普及に向けた取組を行う。

2. 平成24年度調査の目的

地域におけるユニバーサルツーリズムの取り組みを抽出し、他地域で参考となる取り組みをモデル化するとともに、シンポジウムを開催することにより関係者間の連携を強化し、ユニバーサルツーリズムの更なる促進を図ることを目的とする。

具体的には、ユニバーサルツーリズムに関する着地側の受入環境を整備するために、重要な役割を担う地域の支援団体(NPO等)の活動状況を把握するとともに、現状の課題を抽出、モデル化を通じて、今後の対応方針、取組むべき方向性について検討する。

また、送り手側と着地側の理解度向上、情報共有、意見交換の場としてシンポジウムを開催する。

3. 検討内容

(1) 地域における現状調査

- ◆地域において、旅行支援を目的としてユニバーサルツーリズムに取り組む支援団体について、活動内容を把握するためのヒアリングを実施する。
- ◆ヒアリング結果を踏まえ、モデル化を行う上での現状および課題を整理する。
- ◆地域の現状・課題を踏まえ、対応の方向性を検討するとともに、ユニバーサルツーリズムに取り組む地域、関係者の参考となるよう必要な機能およびサービス、関係者との多様な連携方法などをモデル化する。

(2) シンポジウムの開催

<開催概要(案)>

趣 旨：送り手側、着地側との情報共有、多様な関係者の意見交換の場として、今後の継続的な交流展開を図り、ユニバーサルツーリズムの更なる促進を図る

対象者：旅行事業者、NPO、宿泊事業者、自治体・行政関係者、有識者など送り手側、着地側を中心とした関係者全般

◆11月12日

第1回検討会議

- ・調査事業趣旨説明
- ・地域における現状調査結果報告
- ・課題とモデル化への方向性

◆2月頃

シンポジウムの開催

◆3月頃

第2回検討会議

- ・地域におけるモデル提案
- ・とりまとめ

6. 本日の論点

- ◆ヒアリング結果等より整理した地域の現状等を踏まえ、
ユニバーサルツーリズムの促進に向けた課題や方向性等について
それぞれの立場から、モデル化に向けた 意見交換／検討
- 1. 地域における支援団体(NPO等)の活動・運営上の課題や方向性
 - ・一定水準のサービスの確保
 - ・安定的な運営の確保
- 2. 関係者間の連携の可能性、連携における課題や方向性
 - ・支援団体(NPO等)間の連携
 - ・支援団体(NPO等)と旅行事業者や宿泊事業者等との連携
- 3. 利用者増加のための方策 等
 - ・認知度向上のための施策、広報・PR展開手法
- 4. 今後の調査の進め方 等